

道岳連だより

広報 NO.84
平成30年9月15日
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-haa.net/>

岳友 支笏湖に集う

第35回北海道山岳連盟交流登山会 千歳・恵庭大会

35回目を迎えた北海道山岳連盟交流登山会は、千歳・恵庭両山岳会が主管して支笏湖周辺のイチャンコッペ山など6コースで開催され、道岳連加盟団体会員・個人会員総勢164名が参加した。

開会式、交流会会場のモラップキャンプ場は、駐車場及びフリーサイトが交流会登山会専用で使用区分されている。15時からの開会式では、大会長の小野道岳連会長、大会実行委員長の村中千歳山岳会会長からの挨拶、来賓の千歳市長（代理）からの祝辞があり、その後登山本部長の本宮千歳山岳会事務局長が山行概要説明をした。懸念されていた台風は温帯低気圧となったものの、その影響もあってか16時からの交流会は途中から雨が本降りとなった。以降は各テント内でそれぞれが交流を深めた。

二日目は5時起床、雨も上がり恵庭岳や風不死岳の山頂部は雲に覆われているものの、まずまずの天候となったが、樽前山登山口へ至る道路の通行止めが解除されず、Cコース⇒樽前山～風不死岳、Dコース⇒樽前山～風不死岳（北尾根）縦走、Eコース⇒樽前山～外輪山周辺に登山を予定していた参加者は、別のコース（Aコース⇒イチャンコッペ山、Bコース⇒恵庭岳、Fコース⇒風不死岳北尾、この他）に振り替えて支笏湖の山を楽しんだ。



交流会



湖畔のテントサイト

北海道山岳連盟新執行体制で始動

北海道山岳連盟は、5月13日に開催した平成30年度総会で役員の変更を行い、次のとおり新役員を選任した。任期は平成32年までの二年間となる。

会長 小野 倫夫（えぞ山道会 再） 副会長 齋藤 邦明（十勝山岳連盟 再） 副会長 秋元 篤男（札幌山岳連盟 再） 副会長 石井 昭彦（旭川山岳会 再） 副会長 下山シゲ子（釧路山岳連盟 新）
監事 宮西 博（美唄山岳会 再） 監事 荻谷 勝利（下川クライミングクラブ 再）

また、会長推薦による常任理事は、総会後に開催された第1回理事会で以下の通り承認された。

明田 通世（理事長兼指導委員長 札幌山岳連盟 再） 澤田 時人（総務委員長 室蘭山岳連盟 新）
齋藤 邦明（遭難対策委員長 十勝山岳連盟 再） 横山 温（普及委員長 室蘭山岳連盟 再）
高見 直広（ジュニア委員長 富良野山岳会 新） 山納 秀俊（競技委員長 HFC 再）
増子 麗子（自然保護委員長 クーラカンリ 新） 下山シゲ子（海外登山委員長 釧路山岳連盟 新）
益田 敏彦（事務局長 札幌山岳連盟 再） 田中 清子（副理事長 岩見沢山岳連盟 新）
玉木とし子（事務局次長 札幌山岳連盟 再） 本林 尚之（ジュニア 恵庭山岳会 再）
一安 敏文（競技 HFC 再） 上野 敏彦（遭対・事務局 えぞ山道会 再）
武田 渉（競技 北海道トレイルランニングクラブ 新） 春山 孝義（競技 登攀道場美唄 新）
奈良崎 功（ジュニア 美唄山岳会 新） ※HFC：北海道フリークライミング協会

鎌田耕治さん叙勲「旭日双光章」綬章を祝う会

今年4月の春の叙勲で、永年にわたるスポーツ振興功勞により「旭日双光章」を綬章した鎌田耕治北海道山岳連盟顧問の綬章を祝う会が、5月13日の道岳連総会終了後にTKP ガーデンシティ札幌駅前で開催された。会場には、道岳連や日本山岳会北海道支部、道ガイド協会など48名の関係者がお祝いに駆けつけ、祝詞やスピーチで氏の功績を讃えた。

鎌田顧問は小樽山岳会所属で、昭和61年道岳連指導委員長、平成8年理事長、平成16年副会長、平成18年会長を歴任し、はまなす国体運営やエベレスト登山隊派遣、二度にわたる全日大会の招聘、日高登山研修所の開設など、リーダーシップを遺憾なく発揮し道岳連を牽引するとともに、北海道の山岳スポーツの振興に貢献された。



謝辞を述べる鎌田顧問



行事・各委員会事業報告

平成 30 年度総会・第 1 回理事会 5/13 札幌エルプラザ

北海道山岳連盟平成 30 年度総会・第 1 回理事会は、去る 5 月 13 日(日)札幌エルプラザにおいて、加盟山岳連盟・山岳会の代議員 53 名(委任状 22 名)の出席のもと開催された。

会長挨拶の後、議長に小樽山岳連盟戸谷代議員、十勝山岳連盟大橋代議員を選出し議事に入った。1 号議案「平成 29 年度を振り返って」では、明田理事長が日本山岳・SC 協会における東京 2020 に向けた組織体制の強化など、日本の登山界をめぐる全般的な情勢の報告があった。その後、道岳連の平成 29 年度事業及び業務がほぼ予定通り行われたこと、課題としての財政逼迫や若い登山愛好者との接点の模索などにも言及した。

2 号議案「平成 29 年度事業報告」、3 号議案「平成 29 年度収支決算報告」は、各委員会委員長及び担当者が報告、山の日事業、道岳連無線の更新、決算書様式の統一などの質疑を経て承認。4 号議案「会計監査報告」も承認された。5 号議案「平成 30 年度に向けて」で理事長は、①加盟団体との接点をどう持つか ②財源対策 ③リーフレットの活用 ④常任理事会開催のあり方について具体例を掲げて説明。6 号議案「平成 30 年度活動方針及び事業計画(案)」、7 号議案「平成 30 年度会計予算(案)」は事務局長、各委員会委員長が説明し、個人会員の指導員資格取得、山岳スキーの委員会としての組織化の質疑を経て提案通り承認される。

9 号議案「道岳連規約の一部改正」は、総会における代議員と理事の関係の明確化と条文全体をわかりやすく改訂したことを説明し承認を得る。10 号議案「各種議題・その他はスキーDVD 販売状況、全日大会収支、山の日、安全登山シンポジウムなどの今後の事業予定が示された。11 号議案「役員改選」は理事会で推薦された三役候補者を提示し、提案通り承認される。

総会に引き続いて開催された第 1 回理事会では、会長推薦による常任理事の選任報告と加盟団体調査票提出と加盟金納入について要請があり、15 時に閉会した。



2018 年 安全登山シンポジウム 5/28 札幌エルプラザ

北海道山岳遭難防止対策協議会と北海道山岳連盟が主催する「2018 年安全登山シンポジウム」が、5 月 28 日札幌エルプラザ 3F ホールで開催された。トムラウシ遭難事故を機に開催されたシンポジウムは今年で 9 回目を迎えた。

特別講演講師の北海道警察地域部地域企画課指導官西村和隆氏は、北海道内で増加する山岳遭難事故の事例をもとに、その実態を説明して事故の防止を訴えた。

写真家の伊藤健次氏は「野生園への旅立ち」のテーマで講演し、野生の生き物を軸に北海道内や環オホーツク圏で精力的に取り組んでいる撮影活動の体験などをスライドで紹介した。

パネルディスカッションは …「ヒヤリハット！」山を舐めたことありませんか … のタイトルで

齋藤副会長が進行役を務め、パネラーは下山シゲ子氏(鉤路山遊会)、石井昭彦氏(旭川山岳会)、加藤陽子氏(ロビニア山岳会)、アドバイザーに西村和隆氏、伊藤健次氏で進められた。山岳や自然界におけるインシデント、アクシデントなどの事例をあげて事故防止に向けた討論が進められた。



夏期遭難対策研修会 5/19-20 日高登山研修所及び周辺

平成 30 年 5 月 19 日から 20 日にかけて、日高町千栄の日高登山研修所において、一般山岳愛好者や山岳連盟会員 15 名、スタッフ合せて 20 名が参集し研修会を開催しました。

19 日は、あいにくの時々雨が降る日でしたが、午後 2 時より道内の遭難状況や登山における沢歩きの要点の話の後、体育館において制動確保の研修とツェルトの張り方を研修しました。制動確保では高さ 5 メートルの地点に支点をセットし、40 キロの重りを落下させ、肩がらみによる制動確保を行いました。この技法はクライマーの滑落の衝撃を和らげる有効な技術である。安全のため倒れ込みマットとセルフビレーセットを行いました。ほとんどの参加者はビレイを使わず挑戦、ロープの繰り出しのタイミングが合わず倒れ込む者や、ロープに引きずられる者など制動確保のタイミングの難しさを体感しました。また、半数は交代でツェルト張りを実習。必要など素早く避難できるように、持参したツェルトに張り綱などを普段よりセットしておく必要性について認識しました。



夕方には雨が上がり、夕食はいつものとおり牛とジンギスカン鍋、昼間採取しておいたギョウジャニンニクに舌鼓を打ちながら交流会を行った。若い消防士等は食べっぷりが気持ちいい。

翌日は晴れ上がり、8 時 30 分より研修所近くの沢の砂防ダムを利用し、垂直の 7 メートルの壁を肩がらみで一人ずつ人を下ろす研修、女性も挑戦し立ち位置と支点が安定していればそれほど難しくはない。続き 2 分の 1 で人を引き上げる。引き上げられる方にも手助けがあれば、素早い引き上げが可能となる。

もう一つの班は、スケットを利用して要救助者を壁から降ろす研修を行いました。安全のため補助ロープを使っての研修でしたが、最初の支点のセットの方法に時間がかかり、下降においてなかなか思うとおりにいかない。2 回目以降はチームワークがとれ、慣れてくると安全に降ろすことができるようになりました。最後にこの研修を通じ、参加者より器具の使い方、チーム

内での安全のチェックや息を合わせることの大事さについて報告がありました。

スタッフ 齋藤 邦明 仲井 信夫 為野 宜己 潮田 満 向川 司郎

(報告 遭難対策委員長 齋藤 邦明)



第3回拡大合同登山 5/20 芦別岳本谷

芦別岳は、夕張山地最高峰の山で標高は1726mです。四季折々を楽しめるほか、本峰を含め夫婦岩やガンマルンゼ奥壁等は、多くのアルパイン・クライマーが何本ものルートを開き、再登が行われている岩登りの山でもあります。

旭川山岳会が春山研修として例年行っている芦別岳本谷コースと1稜登攀コースが、今年度5月の道岳連拡大合同登山会に選ばれ、11名の道岳連会員の参加がありました。旭川山岳会では、予定していた2名が体調不良と仕事で不参加となり、1稜登攀コースは都合により取りやめ、本谷コースを全員で登ることになりました。

前日まで雨が降り、標高1000m辺りには新雪が残っていました。当日は、朝から快晴で風もない中、登ることができましたが、残雪で埋まっているはずのゴルジュが開いており、高巻かなければなりません。今年暖気が早く、雪解けが進んだのでしょうか。

ゴルジュは、左岸の灌木を使って登り、下降は補助ロープで一人ずつ確保しながら降りたので、ここで1時間30分ほどロスしました。インゼルを通過して2稜の末端から急登が始まります。



インゼル手前の登り

約2時間、急傾斜なので休憩なしで旧道登山道へ出ました。ここで大休止、食事を摂り、足がツル者などは薬を飲んで体調を整え頂上へ向かいました。

頂上では360°の景色を眺め、大雪、夕張、日高の山々を山座同定。全員で記念撮影後、新道に向け下山開始。最初の降り口が旧斜面なので、右にトラバースしてから下り、平らになったところでアイゼンを外し、雲峰山からは尻滑りやグリセードもどきを交え半面山へ。半面を越え少し下ると夏道が出て、この後も長い下りが続きましたが、最終下山者は17時に登山口に到着しました。19

名の足も揃っていたので、15分程度の差で下山でした。(報告 旭川山岳会 石井 昭彦)

新道登山口駐車場集合 5:30—旧道登山口発 7:00—丸太橋 7:30—ユーフレ小屋 8:00—ゴルジュ
高巻き完了 10:00—インゼル 10:30—頂上着 13:35—半面山 14:45—新道登山口 17:00

《参加者》

旭川山岳会 8名 札幌山の会 4名 はまなす室蘭山岳会 2名 函館マウンテンクラブ 1名
個人会員 4名

沢・登攀研修会 8/18-19 白老川支流三重の沢

8月18日(土)から19日(日)の2日間、登別ふおれすと鉾山と白老川支流三重の沢で北海道山岳連盟指導委員会主催の沢・登攀研修会を実施しました。参加者は15名(うち18日のみ参加者1名、19日のみ参加者1名)

《講師・スタッフ》

指導委員会副委員長 石川 孝一 委員 小原 隆 芳澤 昭仁 藤木たか子 澤田 時人

初日の研修は、「沢登りのための装備」、「地図読みとコンパスの使い方」、沢登りや登攀に必要な「ロープワーク」を10時半から17時まで行いました。沢登りに必要なロープの結び方である「フィギアエイト・オン・ア・バイト」、「クローブヒッチ」、「プルージック (ブリッジ・プルージック、オート・ブロック)」を研修しました。ロープワークそのものが初めての人もおり、名称を覚えるだけでも一苦労です。何回も同じ作業を繰り返し、習得していました。

2日目は、実技場所を白老川とし、四季彩街道の途中にある「大石橋駐車場」まで車で移動後、白老川本流に下り、白老滝を見て時計回りに沢を遡行し、三重の沢に入りました。ベテランだとロープを出して登る事のない滝であっても、初心者の多い今回の参加者の安全を確保するため、リーダーやサブリーダーが先に登り、上から確保用のロープを出し、参加者は三点支持で登っていました。最後は林道に一旦上がり、砥石沢を下り、大石橋駐車場に4時間半かけて戻りました。

2日間にわたり、指導してくれた講師・スタッフをはじめ、参加者の皆さんお疲れ様です。事故なく、怪我なく終了できたことに感謝します。御協力ありがとうございました。

(報告 指導委員会 澤田 時人)



三重の沢を遡行

夏山講習会 Part1

5/3-6 月山・鳥海山

5月3日(木) 苫小牧東港新日本海フェリー集合 17:30⇒発 19:30

今年初となる講習会の参加者は、個人会員5名、山岳会13名、スタッフ6名の総員24名で、東北地方の名峰鳥海山、月山に登り、残雪期のスキー・スノーシューでのスキルアップと親睦を深める目的での講習会です。旭川の長瀬さんの協力でバス移動ができ、効率よく楽しい時間を共有できたことを参加者一同感謝しています。

5月4日(金) 秋田港着 7:30⇒月山スキー場着 11:50⇒月山リフト降り場着 12:50⇒登山開始 13:05⇒姥ヶ岳コンタ 1600m 着 13:45⇒下山開始 スキー場経由⇒駐車場着 14:20⇒ホテルまさか着 19:10

低気圧の北上により秋田港到着は小雨の中で、気持ちが重たい下船となった。南下して先に200Km 走り月山登山をすれば、明日の鳥海山は天気が回復すると考え出発した。天気は回復傾向にあり、月山スキー場では青空が見え隠れしていた。到着後の登山準備の速さは、堰を切った水のごとく準備万端リフト乗り場に集まった。しかし、登山開始地点では視界がきかず風も強くなってきたのだが、姥ヶ岳山頂を目指してスキー、ツボ足で歩き出す。ほぼ一直線のパシュート状態で登り標高を稼ぐが、コンタ 1600m 姥ヶ岳山頂手前での風の強さ、視界不良でこの地点を本日の頂上として下山する。下りも周囲のメンバーを確認しながらリフト周辺まで慎重に滑り、下るにつれて良くなる天気の中、それぞれの滑りで駐車場のバスに着く。わずか2時間30分の登山活動で終わってしまった月山でした。

つづら折りの坂道を下り、途中の道の駅で秋田名物のお土産を買い込んで、宿泊場所の「ホテルまさか」に着いたのは19時を回っていた。風呂にも入らず明日の好天を祈願し、まずは乾杯して夕食を取り今日のスケジュールを終える。



姥ヶ岳(1670m)へ出発

5月5日(祝) ホテルまさか発 7:00
⇒ 祓川登山口着 7:30⇒ 祓川ヒュッテ発 8:15⇒ セツ釜避難小屋着
9:40⇒ 最高到達地点コンタ 1720m

付近 10:30⇒ 下山開始⇒ セツ釜避難小屋着 11:10⇒ 祓川ヒュッテ着 12:15⇒ 祓川登山口着
12:45⇒ ホテルまさか着 13:15

朝起きると窓の外は雨で雷のおまけ付き、天気予報を確認し予定通り7時に出発する。ホテルのバスから見える桜の花びら、ふきのとうの群落そして雪の小回廊を通り祓川登山口に着く。天気は良くなったが風が強い。スノーシュー班は昨日同様ツボ足で登る事にした。祓川ヒュッテで風の様子を伺うが、弱まる気配はないので登山を開始する。

圧雪された雪面を踏みしめ、通称タッチラ坂から御田の急峻な斜面を登り切り、セツ釜避難小屋に着く。小休止「モグモグタイム」を取り山頂を目指して登り出す。風は強さを増し、ブリザード状態の中、立ち止まりながら登るがコンタ 1720m 地点下山する事にした。ツボ足で先行した面々も1750m から引き返してきた。鳥海山は私たちに厳しさを見せつけてきた。大粒のアラレが風に舞い顔をたたくので、記念写真を撮り早々にシールを外し滑走に入る。さすが北の大地で乗っている



御田の大斜面滑走

二日間お世話になった「ホテルまさか」の主人の見送りで出発する。予定通りに秋田港を後にし波静かに航海を終え苫小牧東港に到着する。天候に恵まれず山頂を踏まずに終わりましたが、東北の名山の素晴らしさを感じたと思います。またチャレンジして下さい。

(報告 普及委員長 横山 温)

《参加スタッフ》

小野倫夫会長 横山 温 細木 昭男 加藤 陽子 田中 清子 横山 泰子

受講者感想①

残雪期の春山スキー、鳥海山・月山講習会に参加して 内村 京子

春の山スキー、フェリー乗船と温泉宿を体験する贅沢な山行に、東北地方に惹かれ思い切って参加させて頂きました。ところが、予報どおりに低気圧の影響で、大揺れの船に酔って体調不良になり、上陸して姥ヶ岳スキー場から上がると、視界不良で途中撤退となり、翌日の鳥海山では、激変する強風、突風にこの時期の山の厳しさ、難しさを体感しました。

けれども、経験豊富なスタッフや仲間達の援助のおかげで、スキー技術、経験が未熟な私でも二日間春のザラメ雪を楽しく滑ることが出来て、皆さんに大変感謝しています。

そして、宿での行き届いたおもてなしや、地元の山菜料理、イワナの田楽みそとコツ酒、刺身に添えられたカタクリの花まで美味しくいただき、賑やかで楽しい懇親会が印象に残りました。ひとそれぞれの山の楽しみ方があるのだという事を知り、私ももっと頑張ろうと前向きな気持ちが湧いてきました。今回は頂上には行けませんでした。また、この次こそは、と思わせる東北の春山の魅力を感じることができ、私にとって人生に彩りを添えてくれた大人の修学山行となりました。

お世話になったみなさん、ありがとうございました。

受講者感想②

夏山講習会に参加して(スノーシュー) こぶし山岳会 田中 清子

「東北・北海道地方のゴールデンウィーク後半の天気は雨」そんな予報が外れることを期待していたのですが、現実には厳しく予報通りの雨、北海道の各地から集まった仲間達の表情も少し沈みがちでした。今回は観光だけになっても仕方がないと、みなさん自分に言い聞かせていたみたいです。低気圧の影響でフェリーは大揺れ、波が船体に激しくぶつかる音で目が覚め不安が増す中、秋田港に到着。予定を変更して一日目に月山、天候の回復を期待して二日目に鳥海山を登ることになり一路山形へ向かいました。きっと歩けないだろうと心の声が聞こえました。月山ではリフトを使用し1500m 地点から可能な限り歩くことになったのです。視界不良で風も強く早々に下山となりました

が、一步も踏み出せないと思っていたので、少しでも歩ける事が嬉しく感じた月山となりました。

翌日、鳥海山は美しい姿を私達に見せてくれたのです。「これは登れるのでは」期待で胸膨らませ矢島口に到着するも、小屋周辺は飛ばされそうな強風、準備中は雨も降り出す始末です。小屋で待機中、今日もダメだろう諦めていたら雨が止んだので行きましようと言った横山リーダーの声、「エッ この強風の中歩くの…」多少の不安を抱え私達スノーシュー部隊は山スキー部隊に続いたのです。強風に襲われながらも避難小屋までたどり着き、なんとさらに上を目指したのです。しかし、高度を上げるにつれて耐風姿勢を取っている時間が長くなり、1750m 付近では動くことが出来なくなり撤退することになりました。そんな私達に、鳥海山はその凜とした姿で山の厳しさを教えながら「またおいで」優しく微笑みかけ私達を見送ってくれました。また必ず戻ってくると私は誓ったのです。

今回の山行は天気は左右され、一喜一憂の連続でしたが、最後まで諦めないという横山リーダーの姿勢のお陰で、月山・鳥海山に少しでも登り楽しむ事が出来たと感謝しています。今回の企画・準備の全てを担って下さった普及委員会の皆様、マイクロバス運転の長瀬さん本当にありがとうございました。そして今回参加の会員、個人会員の皆さんお世話になりました。皆さんが普及委員会の活動を盛り上げているのだと実感しました。

最後に目標『今度は山スキーで参加できるよう頑張るぞー 鳥海山を滑り降りたい!』



鳥海山スキー班集合写真



「ホテルまさか」での夕食

夏山講習会 Part II 6/9-10 チャラツナイ海岸・室蘭半島

・・・室蘭市チャラツナイ海岸初めての岩登り・室蘭半島トレッキング・・・

6月9日(土) 9:30 室蘭市地球岬駐車場集合 参加者 14名(スタッフ含む)

地球岬の東、チャラツナイ海岸へ移動、岩登り会場

海岸へ、ムンターヒッチでローアダーダウンの練習をした。青い空、白い雲、青い海、草の緑、エゾカンゾウの黄、色彩と景観に見とれる。トップロープを2メートル設置して、登山靴で登り、降り練習。無風、晴天 15:00 終了した。人影は我らのみ、太平洋が広がり、水平線が丸く見えた。

宿泊は室蘭ユースホステル(みゆき町3-2)、車で移動1時間、田上義也が設計した。夕刻、16:00以降、強い雨になった。夕食 18:00。

6月10日(日) 室蘭半島・絵鞆(えとも)半島のトレッキング

早朝、終点の道の駅(みたら室蘭)に車を配置。6:30 ユースホステルで朝食

7:30 ユースホステル発、イタンキ浜へ行く。鳴り砂で有名なのだが？ 昨夜の雨か？ 浜の汚れか？ 我らの不徳か？ 砂は鳴いてくれなかった。緑の細道を室蘭八景へ進む。トッカリシヨの奇勝の絶景、

金屏風・銀屏風の断崖絶壁、地球岬、マスイチ浜の外海絶景、絵鞆岬の景観測量山の展望。

札幌より開花が早い。ハナショウブ紫、フランスキク白、エゾカンゾウ黄、オオカメノキ白、ホオノキ白、ノリウツギ白、ハマナシ赤、色々で、ルートは変化に富み飽きることが無い。室蘭は山あり、海あり、多くの奇岩、名物あり、奥が深く季節ごとに訪れたい。

行程は20Kmになった。終点は白鳥大橋のふもと、道の駅(みたら室蘭)。疲れた。ゆららの湯に浸かり、満足した。室蘭焼き鳥を食った。食事処「天勝」で天井を食った。次回はカレーラーメンを食うぞ。
(報告者 普及委員会 橋本 一郎)

《参加スタッフ》

秋元 篤男副会長 横山 温 橋本 一郎 松下 陽子 加藤 陽子 横山 泰子

受講者感想

夏山講習会に参加して 札幌市 A・K

北海道トレイルランニングクラブに所属し、フルマラソンやトレラン大会へ出場することを趣味にしています。登山技術について高校の山岳部時代に少しかじった程度で、今後山登りのバリエーションを広げるためもう一度学びたいと思い、道岳連講習会へ興味を持ちました。初めての岩登り(登山靴OK)という言葉に背中を押され、今回初めて道岳連の講習会へ参加し、刺激的で有意義な2日間を経験することができました。

1日目、チャラツナイ海岸の岩登りは、ロープの結び方(ムンターヒッチ、エイト結び)、チェストハーネス、懸垂下降について、初心者にもわかりやすく教えていただきました。人生初の懸垂下降でしたが、スタッフさんにマンツーマンで指導していただき、安心して挑戦することができました。海岸からの景色がとても美しかったです。参加者さんやスタッフさんの素晴らしいクライミングを見て勉強になりました。今回学んだ岩登りの技術を忘れないように、今後もクライミングウォールなどで練習したいです。

宿泊先の室蘭ユースホテルでの懇親会は、室蘭名物の焼き鳥を堪能しながら、参加者さんやスタッフさんの貴重なお話を聞けて、学びが多く楽しい時間を過ごすことができました。

2日目、室蘭半島のトレッキングは、20Kmありましたが、主に観光道路を歩いたため、海、山、花の綺麗な景色を満喫しました。お昼ご飯は天井で有名な天勝へいき美味しく頂きました。その後登った測量山で、地元カラオケサークルの野外ライブに出くわし、演歌に元気をもらいました。終点の道の駅まで曇りで風も弱く歩きやすい天候でした。今後も道岳連の講習会へ参加することを楽しみにしています！ありがとうございました！



←前岩にて訓練



室蘭半島を巡る

ジュニア登山教室 2018 8/2-4 雌阿寒岳ほか

日本百名山・樹海にそびえる火山の山“雌阿寒岳”1499mに登ろう！（子どもゆめ基金助成活動）

8月2～4日の3日間、小学校4年生から中学校2年生まで18名のお子さんが参加して開催しました。

《役員スタッフ》

ボルダリング⇒ 國谷 斗馬 橋村 昭男 林 千里夫 スタッフ⇒秋元 策男

登山講師⇒ 為野 宜己

スタッフ⇒ 本林 尚之 奈良崎 功 川邊 由美 下山シゲ子 長瀬正之生 高見 直広

8/2 初日は札幌市「グラビティリサーチ」に集合し、北海道体育協会指定コーチの國谷斗馬さんをはじめ「北海きたえーる」でクライミングを指導してくださっている指導員の方々から「ボルダリング」の楽しさを体一杯使って味わいました。

バスに乗車し足寄町への長旅を経て「ねいばる足寄」へ到着。2泊の集団宿泊生活のための心構えと生活の決まりを施設の方からのお話を聞き、宿泊部屋でベッドメイキング・夕食・入浴をしてから、明日の雌阿寒岳登山にむけての心構えと準備、水分の取り方や歩き方について学習しました。最後は皆で「がんばるぞ！」と声を合わせて就寝しました。



グラビティリサーチでボルダリング体験

8/3 2日目、天気は晴れ。先日までの猛暑も和らぎ絶好の登山日和となりました。登りはゆっくりのペースで、自分の体調と相談しながら大幅に遅れる子もなく、3時間かけて頂上に到着しました。頂上からは火山を感じる蒸気が溢れる様子や硫黄の匂いを感じたり、雄阿寒岳や阿寒湖の眺めを味わうことができました。山頂は風が吹き、体温低下を防ぐため素早く下山をはじめ8合目あたりで、びっくりさせるために、ひそかに担いでいた「小玉すいか」を出して、みんなで食べて水分を補給しました。

下山は火山れきのザレ場を歩くのに子どもたちは苦勞していました。運動靴によってはソールの溝が浅く、グリップが効かないため恐る恐る降りる子どもが少なくなく、途中足首を捻ったお子さんにテーピングで固定して様子を見たりしながら時間をかけて全員無事下山することができました。

ネイパル足寄に戻ってからは夕食をたっぷり食べて、お風呂で汗を流してから「感想交流会」で今日みんなのがんばりを確認して、達成感ある充実した1日を喜びました。

8/4 最終日は「ねいばる足寄」を退所するための部屋の整理・整頓をしっかりと行い、お礼を言って退所しました。最後に「足寄動物化石博物館」で学芸員さんから化石発掘から見える大昔の動物の暮らしについて学習し、ミニ化石発掘体験活動を通して、大地と自然との関わりを感じました。

閉会式ではみなさんに「修了証」と記念品を渡し、バスに乗って札幌に戻り保護者の皆さんに引き渡しました。

3日間の中で初めてあう子どもたちどうしで仲良くなって、声を掛け合いながら協力して楽しい

笑顔をいっぱい見せながら生活して充実した時間を過ごすことができました。また、閉会式の時に「来年も参加したい！」というお子さんの声をたくさん聞かせてもらうことができ、運営していたスタッフの皆さんの喜びもひとしおでした。

お子さんの名前などの準備、運営の細かいところでの対応の間違いなどもあり、お子さんや保護者の方々にご迷惑をおかけし、見えないところで準備などの不安を感じさせたと思います。ご理解をいただき、無事に終えることができたことに心から感謝します。

また、スタッフの皆さんには場面ごとに臨機応変に率先して対応し、連携をとって事業をすすめることができたことに心から感謝します。ありがとうございました。

(報告 ジュニア委員長 高見 直広)



雌阿寒岳頂上



足寄動物化石博物館

… 大雪山国立公園 携帯トイレ普及宣言 …

大雪山国立公園連絡協議会（会長 佐藤芳治上川町長）では、大雪山国立公園における携帯トイレの利用促進に向けて「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」を採択し、対外的にPRするため発表式を7月10日上川町旭ヶ丘で開催した。

当日は、関係機関や宣言に賛同する企業、山岳団体、報道関係者など30人余りが出席し、次のとおり宣言を発した。

- 携帯トイレを適切に使用することで、雄大で原始的な景観と共存する登山を推進します。
- 登山者に快く携帯トイレを使ってもらえるような環境づくりを行います。
- 登山者に対して携帯トイレの利用を推進するための呼びかけを行います。
- 携帯トイレの普及に協力してくれる人の輪を広げます。

【賛同機関・団体】

大雪山国立公園連絡協議会(上川・十勝総合振興局、東川町など大雪山国立公園周辺1市9町で構成)、日本山岳会北海道支部、北海道山岳連盟、北海道道央地区勤労者山岳連盟、北海道勤労者山岳連盟、札幌山岳連盟、十勝山岳連盟、北海道山岳ガイド協会、日本ヒマラヤ協会北海道、HAT-J北海道支部、旭川山岳会、上川山岳会、美瑛山岳会、上富良野十勝岳山岳会、富良野山岳会、新得山岳会、旭川勤労者山岳会、山のトイレを考える会、大雪山国立公園パークボランティア連絡会

今後の諸行事

北海道トレイルランニング大会 2018in ルスツ

1. 期 日 平成30年9月23日(日)
2. 会 場 ルスツリゾート・貫気別岳周辺

パワフルレディース登山研修会

1. 期 日 平成30年9月22日(土)～23日(日)
2. 会 場 愛別石垣山・北大雪平山～有明山～天狗岳縦走

第73回国民体育大会(福井国体山岳競技)

1. 期 日 平成30年10月5日(金)～7日(日)
2. 会 場 福井県池田町特設会場

自然保護指導員の集い

1. 期 日 平成30年10月6日(土)～7日(日)
2. 会 場 日高登山研修所・ペケレバツ岳

昆布岳プチ登山会

1. 期 日 平成30年10月13日(土)
2. 会 場 昆布岳

第2回理事会

1. 期 日 平成30年10月14日(日)
2. 会 場 札幌市

第17回スポーツクライミング北海道選手権大会

- 兼 第9回全国高等学校選抜クライミング選手権大会北海道予選会
兼 第59回札幌市民体育大会クライミングコンペ
1. 期 日 平成30年10月28日(日)
 2. 会 場 北海道科学大学体育館

日高登山研修所納会・安全登山研修会・各専門委員会

1. 期 日 平成30年11月3日(土)～4日(日)
2. 会 場 日高登山研修所

冬期遭難対策研修会

1. 期 日 平成30年12月8日(土)～9日(日)
2. 会 場 十勝岳連峰周辺

山岳スキー初・中級研修会

1. 期 日 平成30年12月15日(土)～16日(日)
2. 会 場 ニセコ・白樺山

道岳連だより

北海道山岳連盟広報 No.84 平成30年9月15日発行

発行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市豊平区月寒西3条10丁目2-48

発行責任者 小野 倫夫 編集担当(総務) 内藤 美佐雄